



2011年5月15日

いま起きつつあること…

ボランティアチームに参加して

私は東京基督教大学で募つていたボランティアチームに参加し、国際飢餓対策機構を通じて宮城県に行き、実際に津波で被害を受けた町にはじめて足を踏み入れました。その光景は私にとってとても衝撃で、今までに見たどんなものより絶望感を感じさせるようなものでした。

今回のボランティアでは様々なことを考えさせられ、すべてを言ひ尽くせないほどなのですが、その中でも私の心に強く感じさせられたことを書かせていただきたいと思

ボランティアチームに参加して

がれきを撤去作業では自分の力の小ささを痛感しました。一つのがれきでも重いですし、釘が出ていたりして危ないです、何から手を付けていいのかわからないような状況でした。

がれきを撤去した場所は、おおよそ小学校の教室一室分の広さで、決して広くはないその場所にあつたがれきを撤去するのに、20人がかりで約5時間もかかるてしまうほど、作業は困難でした。

正直、私はその場所で何もしてあげることができなかつたのだと思います。その時その時の避難されている人の要望に応えることはできたのかかもしれない。しかし、それ

震災ボランティアに参加して

何もしてあげることができない

います。

生活している何人かの人と共に、その人たちが住んでいた家に行きました。その家は誰が見ても、もう住むことができない家で、階段部分は家の骨組みだけを残し、壁や窓はすべて壊れていていました。

そんな中で、ある中学生くらいの女の子は、「あのね、私の家は全部流されちゃったんだよ」と、わざとなのか、少し明るく私に向かって言つていました。私はその町の悲惨さを目の当たりにしながら、苦しみを共有できない自分が嫌になりました。またその人たちのために何をしてあげることができるのか分からぬでいる自分に憤りを覚えました。

しかし、それがその人たちの心の支えになると信じたいと思います。特に今回の災害で傷ついた人たちのことを忘れないこと、これがキリスト者が今できる、最低限のことだと思います。たとえ「焼け石に水」と思えるような小さな行動であっても、それらを通して神様が今、痛み苦しみのただ中にある方々に働かれることを願います。

キリスト者にできる

えないので

最低限のこと